

開催期間:

2012年9月13日

9月22日

10月6日

10月20日

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

12members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

豊田市ラグビーフットボール協会

愛知県ラグビーフットボール協会

関西ラグビーフットボール協会

財団法人日本ラグビーフットボール協会

トヨタ自動車株式会社ラグビー部

豊田市ジュニアマーチングバンド

プロラグビー選手 難波英樹氏

地域スポーツクラブ

後援 豊田市役所 豊田市教育委員会

公益財団法人豊田市体育協会

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:

\$7,000

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

NONE

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

豊田市に住み暮らす 40 万人、
特に小学生

主語を忘れないように「我々 JCI〇〇は、」「我々委員会は、」です。

目的:

JCI豊田の目的は地域開発であり、その為に以下の事を行った。

①スポーツを通じた次世代育成。

次世代がスポーツを通じ

①-A 運動する楽しさ

①-B 友情

①-C OMOIYARI

①-D 将来への希望

これらを獲得することを目指した。

②次世代育成に自主的に係る市民の創造。

これらによってよりよい地域の創造。

3行程度 400字以内

【背景】

現在日本は少子化が進み年々子ども達の人数が減ってきている。

未来の日本を支えていく子ども達が減っている中、今まで以上に子ども達に様々な学びとなる機会を提供し、地域を支える大人に成長させる必要がある。

また、より効果的に次世代育成を行うためには、地域に次世代育成を自主的に行える市民の創造を行う必要がある。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

概要:

JCI豊田は目的達成に向けて、スポーツをテーマとした2つのプロジェクトを企画実行した。
市民に呼びかけ、2つのプロジェクトの運営は支援者と協働で行った。

1. 次世代対象にスポーツ大会の実施

1-1. 監督説明会(指導者の育成)

- ・目標達成するために必要な次世代の指導方法や競技特性の説明。

1-2. タグラグビー練習会(次世代の育成)

- ・参加者を事前に25チーム(1チーム6名)に分け練習会を開催。
- ・参加者がチーム単位で練習することで、仲間との絆や思いやりを育む。

1-3. 第1回JCフレンドリーカップ タグラグビー大会

- ・5リーグ(1リーグ5チーム)による予選会の実施、
- ・リーグ勝者による決勝トーナメントの実施
- ・参加者が練習会を通じて学んだ友情やOMOIYARIを、大会という場で競うことでより効果的に高める。
- ・大会アトラクションとして、プロラグビー選手のトークセッション、参加者とプロラグビー選手のキック競争などを行うことで、将来への希望について考える場とした。

2. 次世代育成に自主的に係る市民の創造

- ・JCI豊田の持っている募集 運営などのノウハウを市民に提供した。
- ・市民がそれぞれの長所を活かし能動的に活躍できる機会を提供した。

全部で400字以上

【補足】

- ・タグラグビーとは、普通のラグビーからタックルなどの接触プレーをなくしたボールゲーム。性別や年齢を問わず誰でも安全に楽しむことができるニュースポーツである。
- ・豊田スタジアムは、日本で開催される2019年ラグビーワールドカップの候補地にノミネートされている。

JCI豊田は競技選定において「青少年の育成に効果的」「地域の発展に効果的」という2点を焦点にタグラグビーを選定した。

結果：

【目的①に対する結果】

次世代がスポーツを通じ

- ①-A 運動する楽しさ
- ①-B 友情
- ①-C OMOIYARI
- ①-D 将来への希望

これらを獲得した。

【理由】

JCI豊田は、本事業に参加した次世代 150名へアンケートを行った。

1)『初めて会う友達とチームを組みましたがチームメイトとの「友情」や「OMOIYARI」が大切だと思いませんか?』という質問に対し

91%の次世代が「はい」と回答し、その理由についても、

「知らない子達と協力し喜びを分かち合う事」が多数を占め、

集団競技ならではの「友情」や「OMOIYARI」についてスポーツを通じ自然と学ぶが出来た。

2)『プロラグビー選手を近くで見る事やお話を聞いて将来の希望について考えましたか?』という質問に対し

85%の次世代が「はい」と回答した。

3)自由記述には「楽しかった」「もう一度やりたい」などの意見が大多数を占め、

「運動する楽しさ」を伝える事が出来た。

また、JCI豊田は、本事業に参加した次世代に対して経過ヒヤリング調査を行った。

①『6カ月経過した現在でも「友情」や「OMOIYARI」を持って生活していますか?』という問いに対して
91%の次世代が「はい」と回答した。

②『OMOIYARIの心を周り(クラスや学校)などに伝えましたか?』という問いに対して
46%の次世代が「はい」と回答した。

③『OMOIYARIの心を周りに伝えられなかった理由は何ですか?』という問いに対して
「伝えるタイミングがなかった、分からない」という回答が多数を占めた。

④『今後、OMOIYARIの心を周りに伝えていきたいですか?』という問いに対して
「伝えていきたい」「伝えられるタイミングで伝えていきたい」という回答が多数を占めた。

⑤『なぜOMOIYARIの心を伝えていきたいですか?』という問いに対して

- ・OMOIYARIの心が広がるとみんなが楽しく過ごせる。
- ・人として当たり前の考えだから。
- ・OMOIYARIの心が溢れた学校にしたいから。

などの回答があった。

【目的②に対する結果】

次世代育成に自主的に係る市民を創造した。

【理由】

JCI豊田は、本事業に携わった支援者からヒヤリング調査を行った。

以下、ヒヤリングの結果である。

① 豊田市ラグビーフットボール協会

- ・本事業をきっかけに地域スポーツクラブと協働で次世代対象のタグラグビー教室を定期的を開催するようになった。
- ・本事業前はラグビーの指導のみであったが、本事業をきっかけにタグラグビーの指導も行えるようになった。
- ・継続的に本事業に関わっていきたい。
- ・我々以外に次世代育成を行っている団体を知ることが出来、ネットワークを広げることが出来た。

② 豊田市教育委員会

- ・本事業をきっかけに、2013年度に教員向けのタグラグビー指導者講習会を実施し、学校教育への浸透をすることが出来た。

③トヨタ自動車株式会社ラグビー部

- ・会社の社会貢献活動でラグビー教室を開催した。
- ・次回大会には現役選手を派遣し、より次世代育成に関わりたい。

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

行動:

2011年10月～12月 行政との協議(地域の現状把握と方向性の決定)(4回協議)
2012年1月～2月 各関係団体との協議(それぞれの役割や支援の要請)(11回協議)
2012年3月～7月 本事業の企画の立案(企画会議8回)
2012年8月 参加者の募集
2012年9月10日 チーム決定会議
2012年9月13日 監督説明会の開催
2012年9月22日 第1回練習会の開催
2012年10月6日 第2回練習会の開催
2012年10月20日 第1回JCフレンドリーカップ タグラグビー大会の開催
参加者へのアンケート実施
2012年10月23日 アンケート集計、分析の実施、事業報告書の作成
2012年10月24日 支援者への事業報告、ヒアリングを実施
2012年10月25日 支援者への事業報告、ヒアリングを実施
2012年10月26日 支援者への事業報告、ヒアリングを実施
2012年11月14日 行政への事業報告を実施
2012年11月16日 次年度への引き継ぎ会議の実施
2013年1月26日 支援者への経過ヒアリングを実施
2013年4月25日、26日 事業参加次世代に経過ヒアリングを実施

全部で200字以上
2000字以内程度

読めば委員会の事業前から
事業後までの動きが
だいたい、大まかに解るようにして下さい。

考察や推奨

JCI豊田は第1回JCフレンドリーカップを通じて次世代が

①-A 運動する楽しさ

①-B 友情

①-C OMOIYARI

①-D 将来への希望

これらを獲得することに成功した。

獲得に成功した要因として

①誰でも楽しみながら参加できるスポーツを手法に用いたこと。

②初めて出会った子ども達がチームを組み、練習会などを通してチーム作りをすることに注力したこと。

③大会形式で競い合うことで効果を高めたこと。

が挙げられる。

特にニュースポーツであるタグラグビーを用いたことは、

誰にとっても初めてスポーツであったため個人差がなく有効であった。

各地の青年会議所でもスポーツを通じた次世代育成は、

自然と次世代が学ぶことが出来る環境を作れる点でも非常に有効な手法である。

ただ、アンケート結果の『初めて会う友達とチームを組みましたがチームメイトとの「友情」や「OMOIYARI」が大切だと思いませんか?』という質問に対し、9%が「いいえ」と回答した。

理由として、「勝つことが出来なかった」が多数を占め、

大会形式で行う場合、過度の競争意識を煽ることは

本来の目的達成の障害になるので注意するべきである。

経過ヒヤリングより、多くの次世代がOMOIYARIの心について理解しているが、その心を周りに伝えていく行動については約半数の獲得となった。

理由として、「伝えるタイミングがなかった、分からない」が多数を占め、

どのような場面で伝えるのかなど、スポーツ以外の次世代の生活に即した事例を挙げ説明をする必要があった。

	<p>JCI豊田は次世代育成に自主的に係る市民の創造に成功した。</p> <p>成功した要因として</p> <p>①JCI豊田のこれまでに培ってきた運営のノウハウなどを提供したこと。</p> <p>②これまで個々に活動していた市民がお互いを知り、協力し、長所を活かせる機会を提供したことが挙げられる。</p> <p>支援者へのヒアリングに「本事業をきっかけに地域スポーツクラブと協働で次世代対象のタグラグビー教室を定期的で開催するようになった。」とあるように、地域には個々に活動している団体はあるが、その団体同士が協力することでより大きな効果を上げることが出来ると市民が気づき、行動に移すことが出来た。</p> <p>市民の中には「資金面に不安がある。」「運営をどのようにしたらよいかわからない」など、次世代育成を行いたいという考えはあるが実際に行動を起こすことが出来ない市民が多くいることに気づかされた。</p> <p>JCI豊田は今後の他の事業構築においてもこれらを考慮に入れ、市民が能動的に活動できるきっかけの提供を行い、自主的に活動できる市民の創造を行っていく。</p>

全部で200字以上	

JCI豊田は下記の団体よりコメントを入手した。

① 豊田市ラグビーフットボール協会

- ・JCI豊田の地域を思う情熱と行動力に心から敬意を表する。
- ・今後もJCI豊田と継続的に関わっていきたい。
- ・他の団体と関わる機会を貰い、本事業以外で協働する事が出来るようになり、活動の幅を増やすことが出来た。

②豊田市教育委員会

- ・JCI豊田の行動力、提案力に感銘を覚えた。
- ・JCI豊田の提案を学校教育に取り入れていく。

③トヨタ自動車株式会社ラグビー部

- ・JCI豊田の地域を思う情熱と行動力に心から敬意を表する。
- ・次回大会には現役選手を派遣し、継続的に関わっていきたい。

地域新聞社 2 社が本事業の内容を地域に伝えた。

A社 1 回掲載 配布世帯 9 万 5 千部

B社 1 回掲載 配布世帯 1 万部